

	発行者の略号	東書	大日本
	書名	新しい保健体育	中学校保健体育
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	①保健体育における「主体的・対話的で深い学び」を具現化し、未来を拓く生徒に必要な資質・能力の育成を目指して編集されている。	①知識を活用する力や知識を活かして物事を解決する力が問われる時代に、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するために、学習したことを生活に活かせる「生きた学び」を目指し、編修されている。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①各章末の「学習のまとめ」の中の「確認の問題」で、知識の習得状況を確認できる。保健技能に関する実習ページでは、豊富なイラストや写真を用いて手順が分かりやすく示している。また、技能を映像で確認できるデジタルコンテンツがある。 ②各単元に「思考力・判断力・表現力等」の育成につながる発問が設定されており、課題解決に向けた取り組みができるように配慮している。 ③巻頭に「教科書の使い方」、「保健体育の学習方法」が掲載されており、「見つける」、「学習課題」、「課題の解決」、「広げる」の4ステップ構成を理解して取り組めるように配慮している。	①各小単元の本文で基礎的・基本的な学習内容を分かりやすい言葉で明示し、学習すべき内容の確実な習得が図れるように配慮している。また、知識の定着を図るため、各小単元においてキーワードで学習内容の振り返りをし、各章末では重要語句の再確認ができるようにしている。 ②各小単元の、課題を発見する活動「つかもう」、課題を解決する活動「やってみよう」、「話し合ってみよう」、「調べてみよう」、学習したことを活かす活動「活用して深めよう」などのさまざまな活動により、思考力、判断力、表現力等が総合的に育成されるように配慮している。 ③導入の活動「つかもう」では、生徒に身近な題材や自分の生活について取り上げることで、主体的に学習に取り組む態度を育むことができるようにしている。
	(4) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①概ね内容をふまえている。	①概ね内容をふまえている。
(ウ) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③ 言語能力の確実な育成 ④ 伝統や文化に関する教育の充実 ⑤ 体験活動の充実 ⑥ 学校段階間の円滑な接続 ⑦ 情報活用能力の育成 ⑧ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①「課題の解決」では、内容のまとまりごとに「発問」が設けられ、資料などを主体的に読み解き理解できるように配慮している。 ②随所に「他教科マーク」を設け、他教科の学習内容との関連を簡潔に示し、教科相互の関連を図り、系統的、発展的な指導を行うことができるように配慮している。 ③対話的な学習を導くような発問が多く設けられている。また、「活用する」や「広げる」の活動を通して、コミュニケーション能力が育成されるように配慮している。 ④口絵を多く掲載し、伝統文化について学習しやすく工夫している。 ⑤保健の技能に関するページは、イラストや写真を用いて手順が分かりやすく示されている。また、それぞれ専門家の監修によって制作したデジタルコンテンツを用意し、動画で技能を確認することができるようになっている。 ⑥各章の扉では、小学校、中学校、高等学校で学習すること、高校で学習することを明示し、系統性のある指導ができるように配慮している。 ⑦質の高い動画やシミュレーションなど、生徒の理解を深めるDマークコンテンツを豊富に用意している。 ⑧学習の流れが一目で分かるレイアウトを心がけ、学習の見通しが持てるように配慮している。 ⑨全ての単元が提携の4ステップ「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」で構成されていて、流れが分かりやすく見通しを持って学習が進められるように配慮している。	①本文ページと資料ページを分け、学習内容の要素が見やすく、参照性が高くなっており、「主体的・対話的で深い学び」につながる活動が行いやすくなっている。 ②社会、理科、技術・家庭など、他教科に関連した題材を適宜扱うとともに、他教科に関連していることが一目でわかるようマークで示している。 ③教科書全体で活動を通して、思考したことを記述し、対話や発表をして他者に伝えることで、コミュニケーション能力や論理的思考力が育成されるように配慮している。 ④武道の成り立ち、貝原益軒の「養生訓」、日本の伝統的な食文化である「和食」などを紹介し、伝統・文化の尊重と郷土への愛の育成に配慮している。 ⑤照度計やガス採取器を用いた実験や、ストレスへの対処のしかた、心肺蘇生法などの実習などを数多く取り入れている。また、家庭や地域において保健体育で学習したことを活用できるよう、該当箇所「家」「地域」マークを設けている。 ⑥各章の章扉では、小学校、中学校、高等学校を通じた系統性のある学習ができるように、小学校や高等学校の関連する学習内容を示している。第3学年の最後には、高校生活に向けての生活の目標を書き込むスペースを設け、これからどのような生活を送ろうと思うか考えられるようにしている。 ⑦学習をより理解したり、広げたりすることができるよう、紙面に2次元コードを掲載した上で、ホームページ上にウェブコンテンツを用意し、対応するページにWEBマークを示している。 ⑧1学年では、本文を単語の途中で改行せず、読みやすい位置で改行をしている。 ⑨各章の章末資料では、学習内容に関連する資料を掲載し、学習内容をさらに広げて知識を深められるよう工夫している。「ミニ知識」や「発展」などの読み物や資料で、個に応じて学習内容を深めることができるように配慮している。	
(エ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①学習指導要領の系統性をきちんと踏まえた配列になっており、生徒の発達段階に即した内容になっている。 ②配色及びデザインは、色覚問題の研究者に依頼し、ユニバーサルデザインの観点から全ページ検証を行っている。 ③全ての文字にユニバーサルデザインフォントを使用し、可読性が高められている。また、本文は明朝体、本文中のキーワードはゴシック体とし、区別しやすく配慮している。	①学習内容の系統性、領域のバランス、他教科との連携を総合的に考慮し、適切な単元配列となっている。 ②専門家の監修のもと、読みやすい、見やすい紙面となるよう読みやすい位置での改行をし、ユニバーサルデザインフォントを使用、カラーユニバーサルデザインをふまえた配色を工夫するなどして、特別支援教育やユニバーサルデザインに配慮している。 ③常用漢字、現代仮名遣いを原則とし、教育漢字以外には、見開きページの初出ごとに振りがなをつけている。用語については、学術的に正確なもので中学生に合ったものを使用し、重要語句は太字にしている。	
イ 教科・種目別の観点	① イラスト、写真、事例等の資料について、最新のデータを扱うなど信頼性があり、生徒が健康・安全について、自他の課題を発見し、解決することに役立つような工夫や配慮がなされているか。	①豊富な資料で興味関心を引きつけている。また、自他の課題を発見するための学習課題の設問が工夫している。	①イラストや写真は生徒の学習意欲を喚起したり、興味・関心を引いたりするようなものに厳選されている。参考資料は科学的根拠にもとづいた最新のデータを採用し、学習の助けとなるものを提示している。
	② 生徒が個人生活における健康・安全について科学的に思考し、判断するとともに、筋道を立てて他者に表現できるような学習活動が取り上げられているか。	②「活用する」や「広げる」では、学習してきた知識を活用して自分で考え、他者に伝えられるように配慮している。	②各章末の「学びを活かそう」では、学習を深め、生活に活かすため、思考力、判断力、表現力等が育成されるように配慮している。
	③ 生徒が生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養うよう、学習活動の工夫や配慮がなされているか。	③導入で「見つける」という問題提起をすることで、自分の考えを持って授業に取り組める豊富な資料や、「広げる」という学習したことを生かしてさらに発展させていくように作成している。	③各小単元の「話し合ってみよう」「活用して深めよう」などの活動では、「保健体育の見方・考え方」をはたらかせて深い学びにつながるようにしており、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力が育まれるように配慮している。

	発行者の略号	大修館	学研
	書名	最新 中学校保健体育	中学保健体育
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	①資質能力の3つの柱を踏まえ、主体的に学習に取り組む態度の育成や、多様な考え方や立場を尊重する態度の育成を目指して編集している。	①保健体育科の目標の実現と、資質・能力の育成のために、課題解決的な学習から実生活に生かし、新たな時代を切り開こうとする態度の育成を目指して編集されている。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①学習を進めるにあたってポイントとなる重要語句が[キーワード]にまとめられ、文章中では太字で示している。 ②各項目の冒頭に、生徒の関心や学習意欲を引き出し、気づきや思考を促す導入発問[課題をつかむ]を設けている。 ③中学生に興味・関心のある運動・スポーツに関する話題や、中学生に関わる健康課題を積極的に取り上げている。	①全項目に、「まとめる・深める」または「実習」を設け、その時間で習得した知識をまとめたり、深めたり活用したりする学習活動ができるようにしている。また、ストレス対処や心配蘇生法など身につけるべき技能にはマークを付し、イラスト写真を多く掲載し、分かりやすい工夫をしている。 ②各単元に「課題をつかむ」、「考える・調べる」、「まとめる・深める」項目が設定されており、課題解決に向けた取り組みができるように配慮している。 ③各章末に「探求しようよ！」を設け、学習内容に関係が深く、興味を持ちやすい課題を取り上げている。
	(4) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①概ね内容をふまえている。	①概ね内容をふまえている。
	(ウ) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③ 言語能力の確実な育成 ④ 伝統や文化に関する教育の充実 ⑤ 体験活動の充実 ⑥ 学校段階間の円滑な接続 ⑦ 情報活用能力の育成 ⑧ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①グループで話し合ったり、発表し合ったりして学びを深める課題を設けている。また、言語活動の充実にもつながる内容となっている。 ②関連する内容が他教科にある場合は、[他教科マーク]をつけて示されている。 ③グループで話し合ったり、発表し合ったりして学びを深める課題を随所に設けられ、言語活動の充実にもつながる内容となっている。 ④体育理論③では、特集資料でオリンピック・パラリンピック競技大会を取り上げ、2020年大会が我が国で開催されることの意義が実感できるようにしている。 ⑤「リラクセーションの方法」や「心肺蘇生法」など、実際に体を動かして身に付ける内容を、[実習]として新設し、写真とイラストでわかりやすく解説している。 ⑥各章のはじめには[章とびら]が設けられ、学習内容と実生活との関連を示すとともに、小・中・高の系統性を示している。 ⑦本文に関連する情報をインターネットで調べられるように[web 保体情報館]を設けている。 ⑧見やすさ、読みやすさを高めるために、ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ⑨各項目見開き2ページで1単位時間に対応され、学習指導要領に示された配当時間での指導が可能となる構成になっている。	①「学習の目標」(学習課題の明示)→「課題をつかむ」(導入課題)→「考える・調べる」(学習活動)→本文(学習内容の確認)→「まとめる・深める」(まとめ・活用)といった流れの基本で成り立っている。 ②体育実技や各教科などの関わりをまとめた「キーワードで見る保健体育の学習内容」を設け、知識や情報を関連させながら、教科等横断的に深く学ぶことができるよう工夫している。 ③話し合う、記述する、表現するなど、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促すための言語活動を随所に設けている。主に言語活動を含む学習内容には、「言語」のマークを付している。 ④口絵を多く掲載し、伝統文化について学習しやすいように工夫している。 ⑤実習・実技を取り入れている。特に、口絵6「行って、見て、学ぼう」では、地域や家庭との連携を図っている。また、各項目の最後の「まとめる・深める」では、課題解決的な学習を多く取り入れている。 ⑥各章の扉で小学校、中学校、高等学校の学習内容を見通すことができるようにし、小中連携や小中及び中高一貫教育につなげやすくしている。 ⑦学習活動におけるコンピュータ(ICT 機器)の活用について、実例の写真とともに取り上げている。調べ学習などに有用なウェブサイトなどを随所で紹介し、その箇所にはリンクマークをつけている。 ⑧ユニバーサルデザインの考えに基づいて、配色やフォント、紙色などを精査し、誰もが見やすく分かりやすくなる配慮をしている。 ⑨従来よりも大きいAB版を採用し、紙面幅に余裕を持たせ、分かりやすく構成している。また、各章末に「章のまとめ」を設け、重要語句の確認、基礎的・基本的な知識の習得とその活用ができるようにし、これらを通して自己評価をすることができるようにしている。
(I) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね適切である。 ②教科書のサイズが大きく、広げた際に見やすい構成になっている。ユニバーサルデザインフォント使用。左側のページに配置された「課題をつかむ」で意見を出し合ってから授業に入り、右側のページにある「学習のまとめ」で、個人での振り返りができる構成になっている。 ③漢字にはフリガナが振られ、見やすくしている。	①学習指導要領の系統性をきちんと踏まえた配列になっており、生徒の発達段階に即した内容になっている。 ②見やすいカラーデザインになっている。写真や絵が多く掲載され、視覚的に興味関心を持たせられる。また、本文や見出しなどの書体には、誰もが判別しやすいユニバーサルデザインフォントを使用し、読みやすさや生徒の発達段階を考慮している。 ③文章の表記・表現は、生徒に無理なく理解できる簡潔ものになっている。	
イ 教科・種目別の観点	① イラスト、写真、事例等の資料について、最新のデータを扱うなど信頼性があり、生徒が健康・安全について、自他の課題を発見し、解決することに役立つような工夫や配慮がなされているか。	①p.100の交通事故の実態と原因では、死者数の割合や負傷者の割合がわかりやすくまとめられており、グラフの読み取り方も丁寧に解説されている。 p.81のがんとその予防では、肥満や生活習慣とがんのリスクの関係をわかりやすくグラフ化している。	①言葉だけで示すのではなく、科学的に理解できるよう、図やグラフ、写真などの資料が豊富に盛り込まれている。また、各項目に「課題をつかむ」を設け、学習内容の明確化を図るように工夫している。
	② 生徒が個人生活における健康・安全について科学的に思考し、判断するとともに、筋道を立てて他者に表現できるような学習活動が取り上げられているか。	②グループで話し合ったり、発表し合ったりして学びを深める課題が設けられている。言語活動の充実にもつながる内容となっている。	②章末に設定されている「探究しようよ！」の例や、学習の仕方を示すことなどによって、課題解決的な学習が展開されるようにしている。
	③ 生徒が生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養うよう、学習活動の工夫や配慮がなされているか。	③中学生に興味・関心のある運動・スポーツに関する話題や、中学生に関わる健康課題を積極的に取り上げている。	③「課題をつかむ」の設問が、興味関心をひくようになっている。また、章末には、覚えたことを活用し、さらに定着が図れるように、課題が提示されている。